



地域の
環境活動

市民一人ひとりの繋がりで 武庫川流域を安全で魅力的に

武庫川流域圏ネットワーク



上流域から下流域まで 多面的な魅力や活動を発信

「武庫川流域圏ネットワーク」は、武庫川の上り下流地域で活動する14の団体と8名の個人会員が参加する市民団体です。治水や環境活動を重視する団体・社会福祉法人・幼稚園・大学ほか多様なメンバーが、行政とも協力しつつ、さまざまな角度から武庫川流域をより安全・安心で、魅力ある場所にしていくと集まりました。水辺のお掃除会や講演会・シンポジウムの企画、各種情報発信など、その活動は多岐にわたります。



(上) 市民によるオオキンケイギク駆除のようす
(下) 報告会は他地域からの参加もあり活気づ

力を入れていく活動のひとつに、特定外来種のオオキンケイギクの駆除があります。外来生物法の厳しい定めにより、市民が特定外来種の駆除に参加することが難しい時期が続きましたが、2015年1月に法律の緩和措置がなされ、市民による駆除が可能にな

りました。これを機に、ネットワークは兵庫県からのアドバイスを心得、仁川と武庫川合流点付近を中心に、市民参加を呼びかけたオオキンケイギクの駆除を開始しました。この活動は、他の地域や団体にも広がっています。

また年一回の活動報告会は、とても大切な場なのだとか。水や環境、防災など各分野のスペシャリストを招いての講演会は毎年好評を得ています。また口頭発表や展示の部には、市民だけでなく行政の環境部門の担当者、近隣の中学生や大学生も参加し、立場や世代を超えた交流が生まれる場となっています。ここで生まれた繋がりが新たな取り組みに結び付くことも珍しくなく、最近では次世代を担う若者がイベントを企画することもあります。これらの活動により本ネットワークは、2017年に環境保全功労者として兵庫県知事から表彰を受けています。

川の自然再生のために ほんの少しの手助けを

2018年12月、西宮市内の津門川が水質汚染被害に遭いました。JR六甲トンネルの工事現場からモルタルなどが流出し、魚の大量死を引き起こしたのです。川底に沈殿したモルタルは

取り除かれましたが、ネットワークが実施した観察調査では、生態系の回復はほとんど認められませんでした。津門川は、ネットワークの環境団体、地域住民、大学が魚道や水生植物育成地などの整備を行政に要望して、自然を守り育てた街中の小川川です。長年、津門川を研究対象としてきた山本代表は「自然再生には長い時間がかかりま

す。人間は、自然の復元力を少し後押しすることしかできません。どの川であろうと行政が具体策を実施するには、住民の声を届けることが大切」と話します。

地域住民だからわかり、できること。行政が専門知識をもとに、果たすべき環境や河川管理に係わる責任はいかにあるべきか。それぞれの立場で、できることを話し合いながら、流域の暮らしをよりよいものにしていく活動がこれからも続きます。



▲川に親しむイベントも。下は津門川で水質汚染被害に遭った魚

武庫川流域圏ネットワーク

HP: <https://muko.jimdo.com/> Mail: mukogawaken.net@gmail.com